

アクション・リサーチのまとめ

学校名 吉城高等学校

研究年度 21 年度 研究対象 (学年クラス等) 3年 生徒数 154 名

科目名 Reading 単位数 4 (普通科文系) / 3 (普通科理系・理数科)

使用教科書名 NEW STAGE (池田書店)

副教材名 基本文例600 (啓隆社)、ターゲット1400 (旺文社)

科目名 Writing 単位数 3 (普通科は3クラスを4分割 (Advanced 1クラス・Standard 3クラス))

使用教科書名 DAILY ENGLISH WRITING (池田書店)

副教材名 理・普 Advanced : 長文と文・作・語法の20章 (山口書店)、UPGRADE 英文法・語法問題 (数研出版)

普 Standard : 長文と文・作・語法の18章 (山口書店)、UPGRADE 英文法・語法問題 (数研出版)

クラスの様子・特徴

普通科3クラス (文系2 / 理系1)、理数科1クラス。理数科はほぼ全員が進学希望、普通科は就職、専門学校、四大・短大進学希望と多様。クラスによって雰囲気は異なるが、おおむね授業には落ち着いた態度で臨める。

問題の特定

- ・ 長文の読解力が十分に付いていない。語彙の不足も原因の一つである。
- ・ 読解スピードも十分ではない。センター試験で80%以上を得点するために必要とされる130WPMに達していると思われる生徒は非常に少ない。また、Listeningの力も不十分である。

現状把握

A 授業観察

- ・ 音読練習に意欲的に取り組んでいる。
- ・ 語彙力のなさから本文の読解がスムーズにできない生徒が多い。
- ・ 教科書程度なら楽に読解ができて、長い文章になると文の構造の複雑さもあって思うように理解できない。

B GTEC

- ・ Readingは伸びたが、大学入試レベルの英文になると、概要をとらえる力がまだ不十分である。WPMもまだ少ない。しかし、音読などの声を出す活動には意欲的に取り組む姿勢を保っている。
- ・ 英作文では、日本語を直訳したような不自然な英文がまだ多い。

C 質問紙調査

- ・ 個によって差はあるものの、全体的に見れば家庭学習時間は依然として十分ではない。
- ・ 予習や復習において音読を行う生徒が比較的多く見られる。
- ・ 長文を読む時に、わからない語句は意味を推測したり辞書で調べながら、根気よく読み進んでいこうとする生徒が増えてきた。しかし、わからない語句が多いと読むのをあきらめてしまう生徒が依然として多く見られる。

リサーチ・クエスチョン

音読練習に対する意欲を生かし、活動の仕方を工夫することにより、読解力や読解の速度、Listening能力、語彙力を伸ばすことができるのではないか。

仮説・実践・検証

仮説 1

継続的な速読の活動により、WPM が増えるのではないかと仮定する。

実践 1

短時間でできる速読トレーニングプリントを毎時間授業の始めに時間を計って実施する。WPM を意識した時間設定をする。

検証 1

具体的な数値で明確に向上したことを示すことはできないが、文頭から順に意味を理解したり、スラッシュを入れて意味を整理して捉えようとする姿が多く見られた。時間をかけずに読め、選択式の解答であることから、生徒同士で競い合っ有意欲的に取り組んだ。

仮説 2

スピードを意識した音読をさせることにより、Listening の力が伸びるのではないかと仮定する。

実践 2

オーバーラッピングなど、音読の仕方を工夫し、音と音のつながりや英語のリズム、イントネーションを耳だけでなく口を使って覚える。

検証 2

Listening について劇的な変化が見られたわけではないが、音のつながりを意識した音読をする生徒は増えてきた。更なる継続的な取組により、具体的な変化を期待したい。

仮説 3

サイトトランスレーションを読解に取り入れることにより、速読力や読解力が上がるのではないかと仮定する。

実践 3

教科書の読み取りにおいて、スラッシュを入れた本文を提示することにより、意味の固まりや文の構造を整理しながら本文の内容把握をする。1 文が非常に長い、より複雑な文を用いて、文の構造や意味の固まりを見分けさせ、意味がつかめるようにする。(家庭でのプリント学習)

検証 3

文頭から順に意味を理解したり、スラッシュを入れて意味を整理してとらえようとする姿がより多く見られるようになった。模試の結果を見ると、個によってはより長い文に対しても的確に意味をつかむことができるようになってきたことが伺える。

研究の成果

多岐に渡る生徒の進路指導と同時進行であったため、全体の傾向をとらえることはできなかったが、進学希望者の模試結果は、少しずつ上がっていた。

今後の課題

4 技能を結び付けた総合的な指導が必要である。聞いたことを読んで確認したり、読んだものを使って話す・書く、といった発展的読解・英作文の授業を検討する必要がある。生徒が今後自分で英語の学習を自主的に進めていけるような指導も必要だった。